

# 新宿区多文化共生連絡会 会議要旨

## 分科会①：「プラザの在り方検討について」

日 時 : 平成22年7月16日(金) 18時から20時

会 場 : 新宿区役所本庁舎6階 第三委員会室

参加者 : 7名

(東京日本語ボランティアネットワーク・梶村勝利、明治大学教授・山脇啓造、新宿虹の会・尾形富美子、プラザ相談員・山本風彬、大久保いぶき町会・植木康次郎、新宿区・山田秀之、宮端啓介)

### ～参加者自己紹介～

【「プラザの在り方検討について」参加者の自己紹介・活動紹介】

### ～リーダー、サブリーダーの選出について～

リーダーをAさん、サブリーダーを〇〇会のBさんに担当していただくことに決定した。

### ～意見交換～

C：「多文化共生プラザの在り方」ということで具体的にどんな内容について議論していくのか、議論の進め方などについてご意見を出していただければと思います。少しだけ申し上げますと、固い言い方になってしまうのですが、多文化共生プラザといいますのは、新宿区の多文化共生プラザ設置条例に基づいた施設になっていまして、1条に目的を、3条にやっていく仕事を事業というかたちで記載しております。そこには大きく4つ記載されています。一つ目が外国人への情報提供、二つ目が日本語学習、三つ目が外国人の相談について、四つ目がネットワークの推進について、ということになっています。

プラザに来られている団体の活動がもっとしやすくなるような仕組み、あるいは活動する人たちの声がプラザの運営に具体的に反映できるような仕組みを考えてくれませんか、ということを外務評価委員会のほうから言われています。

もう一つ、プラザがこういうことをしている、ということを利用されていない方にもっと広めてほしい、ということが議会のほうから出されています。このあといろいろなことが具体的に議論されていくと思うのですが、上記の点についても議論していただければ、と思います。

D：さきほどの自己紹介のときにAさんからもご意見がありましたが、「多文化共生プラザの在り方」という検討課題があまりに漠然としていますので（継続して考えていかなければならない息の長いテーマ）、たとえば、来年度予算に反映させるための検討であったり、ある程度優先順位をつけた個別具体的なテーマを設定していければ、と思います。

E：先ほどCさんからのお話にもあったように、外国人の方が活動しやすいような仕組みを考える、ということ優先順位の高い位置において考えていかなければならないと思います。それから2番目として多文化共生プラザの周知を目的とした周年行事について検討できればと思います。

B：多文化共生プラザができて5年目になります。新宿には外国人が多くいる、ということでプラザが設置されたと思うのですが、プラザを創立する段階で外国人の意向があまり反映されなかったように思えます。だから、外国人、地域の方がプラザに何を望んでいるのか、ということ調査する必要があると思います。いろいろな意見を公募することも一つの方法なのかなと思います。

C：設置の段階で地域住民の方や外国人住民の方がプラザに何を望むのか、という意見が出されましたが、そのあたりのニーズの把握などは一つあると思います。そのなかでそういうことをしっかり調査する必要があるのではないかと、というご意見もいただきました。現在のプラザの利用状況といいますか、利用されている人数等のデータを次回の分科会で提出していただいて今後こういった仕組みを検討していくのか、ということと照らし合わせるということが大切なのではないかと、と思います。

B：毎年、多文化共生プラザでそういう数字を出しているのですが、利用者が年々増えているのは私も確認しています。それは大変いいことだと思います。ただ、プラザを知っている人は利用するのですが、知らない人がたくさんいます。地域住民のなかでどれだけの人がプラザの実態を知っているのか、実際利用した人はどのくらいいるのか、ということについては把握できていないのではないのでしょうか。

C：それは平成19年に多文化共生の実態調査をやって、そこでプラザの認知度ということをやっているのですが、2割ちょっとくらいの数字だったと思います。知っているかいないかで2割くらいなので、その2割のなかで来たことがありますか、といえどもっと人数は少ないと思います。

B：利用したことがある、という人を全体的に見れば数パーセントしかないと思います。

1割以下だと思えます。

A：平成19年からはだいぶ変わっていると思えます。それに付け足しになりますが、今言われましたようにデータは結構積み重なっています。実際そこに来て何をやっているのか、何人来たかではなくて、何をしに来たのか、目的は何か、相談をしに来ているのか、勉強をしに来ているのか、といった具体的な内容にまで入っていかないと検討することは広がっていかないと思えます。

B：私の経験ですが、今年資料を作成するために新宿区内の韓国人の男女別の人数を教えてください、ということプラザに電話して聞いてみたのですが、男女別の人数は分からないと言われました。その後区役所のホームページを見たら、すぐに分かったんです。プラザのサービス精神はどうなのかな、と思いました。

E：そろそろ時間になったので、次回のことについてよろしいでしょうか。

A：いろいろご意見があるなかで、第1回目の会議のために資料等の準備を、あとはこういったデータがほしいというのがありましたら、ご意見をいただければと思えます。

F：利用者数の内訳はとっていないのでしょうか。

C：利用者数の内訳等のデータ（基礎データ）につきましては、次回の分科会で配布できるように準備いたします。

A：もう一つよろしいですか。設置条例のなかで“情報”というものをあげていると思うのですが、この“情報”というものがどういう状況にあるか、という資料についても準備していただければ、と思えます。

次の日程ですが、いかかでしょうか。できれば連絡網のような作成して、連絡を取り合うことができると思えます。それはまた次回の会に、ということでもよろしく願いいたします。

以上